



NNA (THAILAND) CO., LTD.

23/61 Sorachai Building 18 Floor, Sukhumvit 63 Road, North Klongtan, Wattana, Bangkok, 10110 Thailand
Tel : 02-392-0475 Fax : 02-392-0479 E-mail : sales_th@nna.asia

MCI(P) 033/03/2018

溶剤再生でコスト削減を支援 サンアップ、処理工場も来年建設

産業廃棄物の3R（リデュース・リユース・リサイクル）コンサルティングなどを手掛けるサンアップ（茨城県つくば市）のタイ法人サンアップ・コーポレーション（タイランド）は、塗装・金属加工の洗浄などに使う有機溶剤のリサイクル装置の販売を中心とした環境ソリューション事業で急成長している。タイの景気が悪化する中、生産原価を見直したいと考える自動車部品メーカーなどからの引き合いが増加。来年にはタイで最大規模となる自社の溶剤リサイクル工場に着工する計画だ。

描く循環型経済
つなぐ未来



サンアップ・コーポレーション（タイランド）が、有機溶剤の廃液をリサイクルするために使う装置のデモ機（同社提供）

2017年9月に設立されたサンアップ・コーポレーション（タイランド）は、有機溶剤やクーラント（切削油）工場排水を中心とした廃液処理のほか、工場の産業廃棄物処理、再生プラスチックの取引など環境・リサイクル分野で、コンサルティングやトレーディング、事業投資を手掛けている。提携するパートナー企業は日タイで100社を超える。このうち主力の有機溶剤のリサイクル関連事業では、自動車部品の大企業など約30社に溶剤再生装置を販売・設置した実績がある。



シンナーで洗浄した後の廃液（左）と溶剤再生装置で分離させた後のシンナー（中）、残渣（右）＝10月25日、タイ・チャチュンサオ県（NNA撮影）

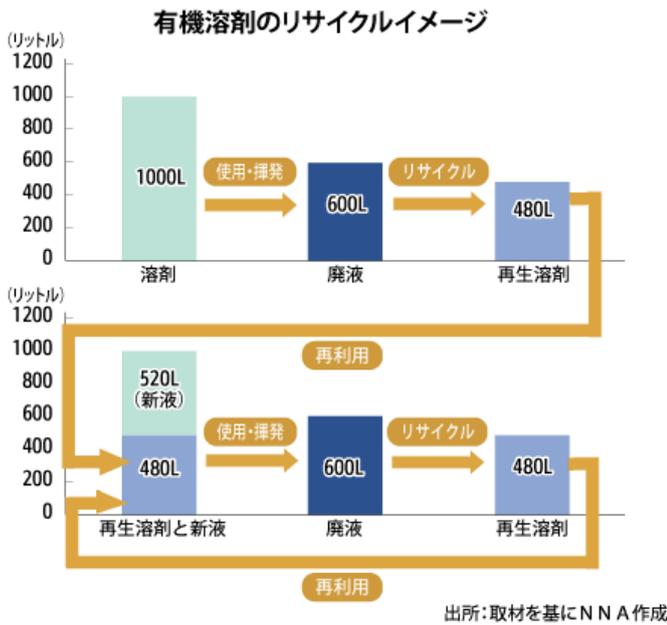
自動車部品の塗装工程では、洗浄に使用した有機溶剤のシンナーと塗料が混ざった廃液が出たり、金属切削の脱脂工程では、洗浄用の炭化水素系溶剤と油が混ざった廃液が出たりする。

サンアップ・コーポレーション（タイランド）の杉山淳最高経営責任者（CEO）によると、これらの廃液は一般的には各社が産業廃棄物として費用を払って産廃処理しているか、二束三文で助燃剤として売却している。

しかし、溶剤再生装置を使うことで廃液から有機溶剤を分離して取り出すことができ、再生溶剤は洗浄や脱脂工程で再び使える。一方、分離して残った油は助燃剤として、燃料を扱うリサイクル事業者に販売することもできる。助燃剤はタイの素材最大手サイアム・セメント（SCG）などのセメントメーカーが使うケースが多いという。

杉山氏は溶剤の廃液をリサイクルすることで、コストメリットも高いと話す。例えば毎月1,000リットルの溶剤を使う企業の場合、使用するうちに揮発する分を除くとおよそ6～7割が廃液として残る。これをリサイクルすると8割程度が再生溶剤として使えるため、少なくとも480リットルの再利用が可能となる。杉山氏は「溶剤をリサイクルすれば、新規調達する量は、毎月半分程度に減るためコスト削減ができる。新液を入れながら循環させることで、われわれが扱う装置を使えば品質的には99.9%同じものとして使える」と話す。

21年にタイ最大の溶剤再生工場



また産廃処理費用を払う必要もなくなるため、溶剤の使用量と種類にもよるが、おおむね年間100万パーツ(約360万円)以上のコスト削減ができ、企業によっては300万パーツ以上の削減につながっている。装置購入にかかる投資も通常1~3年未満で回収できる。サンアップは小型・中型溶剤再生装置大手コーベックス(神戸市)の製品のタイにおける独占販売・サービス権を保有しており、多様な廃液に対応する装置の提案が可能という。

杉山氏は「製造各社は『カイゼン』で生産性の向上を図り、付加価値を高めるための投資を優先的に行っている。一方、廃液のリサイクル自体は製品の付加価値を高めるわけではないが、製造原価を下げることができ、さらに廃棄物も減らせる」と強調する。今年6月以降、タイの新車市場が停滞する中、コスト削減の方法として溶剤のリサイクルに関心を示す企業からの引き合いが増えている。



生産コストを下げるために有機溶剤のリサイクルに関心を持つ企業が増えていると話す、サンアップ・コーポレーション(タイランド)の杉山氏=10月25日、タイ・チャチュンサオ県(NNA撮影)

来年には東部チャチュンサオ県のゲートウェイ工業団地に、自社の溶剤リサイクル工場を建設する。処理能力は月約500トンから始める予定で、タイ最大規模になる。投資額は6億~7億円を見込み、21年春の稼働を目指す。

将来的に追加投資すれば処理能力を倍増させる余地があるという。自社工場では顧客の廃液を預かり、溶剤とそのほかの物質に分けた後に返却する。再生溶剤の純度99.9%以上という高い品質を保証できる設備を設ける。

サンアップはタイでこれまでに、顧客企業の工場敷地に自社で溶剤再生装置を設置して処理を担当するオンサイト型のサービスも提供してきた。こうした自社工場やオンサイトでの設備運営に携わるのが、サンアップが17年9月に設立した合弁会社サンアップ・リサイクリングになる。同社には、サンアップ・コーポレーション(タイランド)が51%を出資するほか、タイの溶剤製造カルコ・ケミカルが20% 産業ガス大手のエア・ウォーター傘下のエア・ウォーター・マテリアル(東京都港区)が19% プラントメーカーの日本化学機械製造(大阪市)のタイ法人ニッカキ(タイランド)が10% 出資している。

杉山氏によると、タイに溶剤のリサイクル事業者は20~30社ある。だが、純度の高い溶剤を再生させる技術や設備を持っておらず、サンアップ・リサイクリングは高い競争力を発揮できるとみている。

前職でタイ駐在経験を持つ杉山氏は「環境・リサイクル市場はタイではまだ手付かずの市場でこれから伸びていく分野」と話す。サンアップ・コーポレーション(タイランド)の従業員は杉山氏を含めて4人。少数精鋭で市場開拓を進めており、今年の売上高は設立以来初となる1億円を超える見通しだ。(京正裕之)

中小企業を支える公的機関の **無料経営相談** をご活用ください!

現地に精通した、経験豊かな相談員が、現地商習慣、法規制、税務・会計、法務に係る相談などに無料で対応します。都外企業やタイ企業にもご利用頂いております。

相談時間 平日 13:00~17:00 (祝祭日、年末年始を除く)
 相談日程 曜日により相談内容が異なりますのでお問い合わせください。
 ●無料経営相談以外にも、お気軽にご相談ください。

📍 マッチング支援
🏠 商談ルーム提供
📍 現地情報提供

(公財) 東京都中小企業振興公社タイ事務所
 ●まずは以下のいずれかの方法で、お気軽にお問い合わせください。

🌐 WEBサイト <https://www.topics.tho.tokyo-trade-center.or.jp/jp/contact/>
☎ 電話 +66(0)2-611-2641
✉ Eメール thai-branch@tokyo-kosha.or.jp